

事業所名

一般社団法人sun・rise

支援プログラム

作成日

2025 年

3 月

25 日

法人（事業所）理念	たとえ障がいがあっても、地域であたりまえに暮らすことを目標に、児童発達支援事業・放課後等デイサービス事業・相談支援事業を運営しています。生きづらさが大きくなるような、支援を目標にしています。											
支援方針	30数年前に障がいを持つ娘の療育をしていく上で、5領域の必要性を身をもって感じ働きかけてきました。その経験を専門資格（社会福祉士・精神保健福祉士・公認心理士）を基に地域の子どもや保護者に還元したいと思っています。障がいを持つ子を育てた経験を踏まえ、保護者や子どもの困り感に寄り添った支援を考えます。保護者が将来どうありたいかから逆算し、年齢に応じた一つ一つの目標を段階的に組み上げ、子どもの環境適応力の向上を支援します。											
営業時間	平日	9	時	00	分から	18	時	00	分まで	対象	未就学児・小学生～高校生	
サービス提供時間	平日	10		00		17		00		定員	10名	
	長期休み	10		00		16		00		送迎実施の有無	あり	
支 援 内 容												
本人支援	健康・生活	来所時の体温測定、手洗いうがいの励行はもとより、体調の不調を言えない子に対しても心身の健康状態を把握するよう働きかけます。ご家族との意見交換を通して家庭環境の変化や、発達検査を受けた結果を認識し家庭と連携した支援を実施します。日常生活の中で基本的な挨拶「おはよう」「こんにちは」「ありがとう」等が言えるよう支援しています。										
	運動・感覚	手足など体の部位の機能に沿って体をきちんと動かせるよう意識しています。外に出て公園遊びや公共施設で体を動かすことで、意識的に自己の体を動かすことが出来るよう働きかけます。結果として動きを表す言葉の認識と行動が結びつくことを目標に支援を行っています。										
	認知・行動	子ども達の日々の活動を通して、複数の用事を理解し行動がとれるよう職員が意識して働きかけています。主体的に動いてしまいがちな障がい特性から、集団内で周囲を見ながら他者と合わせた行動・役割分担が意識できるよう支援していきます。										
	言語コミュニケーション	「・・・していいですか」などこういう事を言ってほしいと思うことを、その子がはっきり意識出来るよう子ども達の名前で呼びかけて働きかけていきます。子ども一人ひとりに、その場の状況に合わせた適切なタイミングで働きかけ、少しずつステップアップしていきます。それが汎化できるようになり、言語の域が広がる努力をしていきます。										
	人間関係社会性	経験こそ学習の信念の下、行事に参加し共に行動し、同じものを見る、お菓子やパン作りを通して同じものを食べる等の集団行動を通して、他者とのつながりを形成していきます。その場の空気や雰囲気を感じる、自分の立ち位置を認識出来るようになることで、学校などの集団生活でも気持ちや行動の調整に反映されます。										
家族支援	保護者との面談の機会を設け、施設や家庭での過ごし方の情報交換を行い、日常生活での困りごとや進路などの相談に対応します。きょうだいに対する相談の援助や、状況に応じて子ども支援センター、児童相談所と連携してサポートを実施します。							移行支援	必要に応じてケース会議に参加し、学校のクラス担任や進路指導の教員等と情報共有、次のステップに向けた方向性を決定するためのサポートを実施します。			
地域支援・地域連携	図書館、博物館、科学館、大型ショッピングモールなどを利用し、公共の場でのマナーや金銭トレーニングを行います。また、地域の工場見学を通して日常生活と産業との関連を学びます。近隣の公園の清掃活動、避難訓練を通して地域とのかかわりについて学びます。							職員の質の向上	課題に対する職員の意見と、代表からの専門的な視点の意見を合わせることで日々職員のスキルアップを行っています。各種外部研修への参加、研修内容を所内へ展開、内部研修を通して虐待防止の意識を徹底し、利用者の権利擁護に努めます。			
主な行事等	創作活動：ステレンボード工作、紀ららアート展出展（令和6年工芸部門で感動大賞受賞） 季節のイベント：節分鬼退治、ひな祭り、七夕、夏祭り（2回）、水遊び、ハロウィーン、クリスマス会 パン・お菓子作り、英会話教室、ソーシャルスキルトレーニング(SST)、科学実験教室、星空教室、感染予防学習											